

利用促進ワーキンググループ活動概要と今後の展開

2005年7月27日

利用促進ワーキンググループ

■ 利用促進WGの目指す成果と具体的な活動

◆ 利用促進WGの目指す成果

- ・ 平成18年3月までに、全ての都道府県において研究開発が実施される（利用申請が行われる）こと

◆ 具体的な活動

- ・ 特定地域を対象とした利用促進活動
（例：JGNⅡプロジェクトの立ち上げ・イベント運営の支援）
- ・ 利用促進部会における活動の成果やノウハウ等の共有、他地域への展開
- ・ 他地域における研究事例・テーマや研究協力者の紹介、
研究資金制度等の紹介、イベントの実施支援 など

■ 利用促進WGの開催概要

◆ WG開催概要

	日時	場所	議論の概要
第1回	平成17年1月17日 (月)12:00-13:00	リーガロイヤル ホテル大阪 蘭の間	■ JGN II 利用の現状、効果的な利用促進方策に関する議論
第2回	平成17年3月17日 (木)10:00-12:00	三菱総合研究所 会議室	■ JGN II を利用した研究について利用申請する機関がない地域(当時8県)における効果的な利用促進方策について議論 ■ 決定したWGの具体的なアクションは以下の通り <ul style="list-style-type: none">□ 特に強い支援の必要な地域(4県) 地域の潜在ユーザ・総合通信局・WGメンバーの意見交換会開催□ その他支援の必要な地域(4県) 定期的なモニタリングを実施

■ 要支援地域への訪問活動

◆ 訪問実績と結果概要

地域	日程	研究テーマの状況	主な利用障害要因
A県	平成17年 4月21日(木)	■ヘルスマonitoringで利用を検討	■地理的問題から、主要研究機関とAP間の足回り回線の確保が困難。
B県	平成17年 5月13日(金)	■訪問決定後に利用申請	■大学で利用時の技術的サポートの仕組みがなく、足回り回線確保が困難。
C県	平成17年 5月31日(火)	■遠隔教育、医療画像の伝送 等	■CATV事業者の通信利用は、既に商用ベースであり利用可否の判断が困難。 ■JGNは期間限定のため、恒常的なプロジェクトでの利用は不安。
D県	平成17年 6月8日(水)	■県とテキサス州立大の共同研究利用 ■高専間の遠隔授業	■ネットワーク研究以外の分野の研究者や民間企業にとっての敷居が高い印象。 ■研究開発に該当するか、申請書記載前に相談したい。

- テーマの有無については地域差が大きいため、取り組みやすい事例情報を提供する、利用が見込まれる研究者等の発掘や個別の働きかけを行うなどの支援策が必要。
- テーマが存在しても、必ずしも共同研究相手を確保しているわけではないため、研究相手のコーディネート等も必要。
- 幅広い分野の研究者への利用を促進するため、説明資料の充実を行う。
- 研究の萌芽段階から、申請の書き方、機器の準備・設置に至るまで助言・サポートを行う体制も検討が必要。

■ 支援地域の状況とWGの今後の対応

◆ 支援地域の状況と今後の対応

地域	現状	WGの今後の対応
A県※	地元大学が利用申請の見込み。	適宜フォローしていく。
B県※	利用申請有。	適宜フォローしていく。
C県※	JGN利用企業では、資金等の面から再利用はやや困難。	県と提携している都市の大学との共同研究に対するサポート。その他、大学等潜在ユーザへのアプローチ。
D県※	APが移設。今後の利用促進が期待される。	利用意向のある大学研究者に対し、相手先との調整、JGN II 利用ノウハウ等を提供。
E県	地元大学でイベントの映像受信などの実績を有するが、申請意向はまだ無し。	地元大学等に対する、具体的なテーマの提案。
F県	利用申請有。	適宜フォローしていく。
G県	利用申請有。	適宜フォローしていく。
H県	JGN利用プロジェクトに参加意向のある機関があるも、回線や機器確保に調整が必要。	モニタリングの継続的な実施。

※)注 訪問県

■ 利用促進WGの活動により明確になった問題

■ アクセスポイントに係わる問題

- －アクセスポイントの近くに研究者がいない
- －アクセスポイントが県の情報ハイウェーと接続されていない
- －アクセスポイントが局舎内等の場合、立ち入り等の制限がある

■ JGN II の広報不足に係わる問題

- －JGN II が知られていない
- －JGN II に接続すると、何ができるのかわからない
- －JGN II を利用したいが、技術的に相談できる窓口を知らない
- －JGN II は、ネットワーク技術の研究開発にのみ利用可能であるという誤解が存在する
- －JGN II を利用しようとしても、共同研究相手が探せない
- －JGN II の特質が十分に理解されていない

■ 当該地域における問題

- －JGN II を利用する研究者が不足している

■ 問題の解決の方向性

大項目	具体的問題	解決の方向性
アクセスポイントに係わる問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者の近くへのアクセスポイントの移設 ・ アクセスポイントへの足回り回線の確保（情報ハイウェーまたはSINET）
JGN II の広報に係わる問題	JGN II が知られていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミへのアピール ・ 大学における地道な広報活動
	JGN II に接続すると、何ができるのかわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的アプリケーション（遠隔特別講義）の提供
	JGN II を利用したいが、技術的に相談できる窓口が知らない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔の見える窓口案内の充実
	JGN II は、ネットワーク技術の研究開発にのみ利用可能であるという誤解が存在する	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプリケーション分野の研究者の充実
	JGN II を利用しようとしても、共同研究相手が探せない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究コーディネータ機能の設置（三菱総研にて対応）
	JGN II の特質が十分に理解されていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ JGN II はレイヤ2ネットワークであるため、セキュリティは確保されており、帯域も実験的に使えることをアピール
当該地域における問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学への利用働きかけ ・ 自治体、高校・高専、企業への利用促進 ・ 足回り回線確保の検討 ・ 利用促進WGメンバによる直接的仕掛け 等

■ JGN II 活用のための地域での取り組み

■ 情報ハイウエーの構築

- ー JGNにおいては、情報ハイウエーがJGNの足回り回線の役割を果たした

■ 自治体等を中心とした利用への取り組み

- ー 情報ハイウエーの相互接続の開始(兵庫・滋賀・福井、兵庫・鳥取・岡山 など)
- ー 地元と各県都道府県事務所との接続への模索
- ー 総合通信局等におけるイベント受信設備の常設化
- ー 高校や高専への展開の検討
- ー 災害情報システムの構築の検討

■ 企業による本格的な実験利用

- ー サンニチ印刷のコンテンツ伝送実験
(JGNを利用して、東京～甲府間で印刷コンテンツの伝送実験)
- ー 毎日放送を中心としたTBS系列における映像マルチキャスト実験
(札幌雪祭りや高校野球のIPv6マルチキャスト機能により映像伝送実験)
- ー ケーブルテレビ事業者による地域間連携によるコンテンツ共有実験
- ー 地域プロバイダによる地域IX(Internet Exchange)接続実験

■ JGN II 利活用に向けたNICTを中心とした取り組み

■ 体制面の再構成

従来のネットワーク技術の研究者を中心とする研究推進体制に加え、アプリケーション（医療、教育、コンテンツデリバリ、地球科学など）の研究を推進するための体制を構築中である。

■ 具体的アプリケーションの提供

JGN II 関係者による、JGN II を介した遠隔特別講義を常態化（週一回～月一回）するための準備中である。

■ 相談窓口の充実

顔の見える相談窓口の構築に向けて検討中である。

■ 研究コーディネーション機能の設置

研究相手を見つけるための機能に関して、三菱総合研究所が中心となっ
て行うことが決定され、現在準備中である。

■ JGN II の利活用促進策に係わるご提案

(1) 利用者層毎の促進策が必要

大学： SINETの活用、すでに県外や海外と共同研究を行っている研究者の抽出、
遠隔特別講義の活用

自治体： 東京事務所との接続、情報ハイウェー間の接続

公設研究機関(工業技術センター等)： 海外研究機関との共同研究の抽出

高校・高専： データ収集・大学との連携 など

(2) 研究開発には様々な側面がある

必ずしもネットワーク技術自体の研究である必要はなく、DV (Digital Video) を用いた遠隔会議を行い、当該分野の作業効率を向上させるための研究でもよい。

(3) 足回り回線と研究資金には様々な工夫を

SINETや情報ハイウェーの利用、地域プロバイダの参画等による足回り回線確保、公的資金(総務省、他省庁、県等)の活用による研究資金確保など、工夫の余地がある。

(4) 利用促進WGを中心としたJGN II利用促進体制の活用を

利用促進WGにて、利用促進ノウハウの集約を行っているため、是非とも活用を。

■ 今後の利用促進WG活動

◆ 今後の利用促進WG活動スケジュール

- WG会合は、必要に応じて適宜開催
- 他地域への展開は、当面、研究利用する機関が少数にとどまっている県を対象に、具体的なテーマの提案や相手先研究者の紹介、JGN II 利用ノウハウの提供等の支援を行うことを想定し、今後WGにおいて具体的に検討予定

平成17年						平成18年		
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問地域に対する 支援プランの実行			→					
モニタリング地域の現状 詳細把握と対応の検討			→					
			他地域への展開					